

④

山田地区の鎮守さま

天神社

天神社は、山田地区の鎮守さまで、旧来、天満宮と呼ばれていましたが、明治3（1870）年に天神社と改称しました。祭神は菅原道真公（木造束帯姿の座像）を祀っております。また、境内には、妙應と刻まれた石碑や太田道灌夢見の石と伝えられている石があります。



妙應の碑

この碑は、天神社境内の西側に建てられています。碑本体は大きな自然石で、表には「妙應」と力強い字が刻まれています。裏には碑に関する文字が150字程刻まれています。風化がひどく解読できません。『新編相模国風土記稿』によると「天明8（1788）年社殿再興の時、社地を掘ったところ古い骨が出たので当時の人はその崇りを恐れて再び土中に埋めて墳を築き祀って護法神としたという。このことが碑の裏にある銘文に記されている。」と伝えられています。



妙應の碑



かつて行われていた余興の様子
昭和52年、20年ぶりに歌舞伎が復活したが、これが最後の余興になった。

天神社と祭典

昔、天神社の神様は神輿が嫌いだと言じられていましたが、あるとき神輿をかついだためにその年に疫病が流行し神輿を境内に埋めたと伝えられています。

また、昭和30年代前半までは、菅原連中と呼ばれる青年団が祭典の余興として、回り舞台で素人芝居を演じたり、歌舞伎を呼んで楽しんだりしましたが、時代の変遷により行われなくなりました。

